

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年3月4日

第47報

## 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体系数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	10		
(黄鞭) <i>Mallomonas sp.</i>	10		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	470		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	30		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	270		
(珪) <i>Synedra acus</i>	30		
(珪) <i>Synedra sp.</i>	10		
(珪) <i>Navicula sp.</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	120		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	20		
(褐) <i>Cryptomonas sp.</i>	20		
(緑) <i>Chlamydomonas cingulata</i>	10		
(緑) <i>Chlamydomonas sp.</i>	60		
(緑) <i>Dictyosphaerium subsolitarium</i>	120		
(緑) <i>Closterium aciculare var. subpronum</i>	2		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum var. ornatum</i>	2		
(緑) <i>Chroomonas coerulea</i>	200		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	20	1.7	2.2
(珪) 珪藻綱	940	78.7	68.5
(渦) 渦鞭毛藻綱	20	1.7	1.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	20	1.7	5.8
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	194	16.2	22.4
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	1194	総体積	5.82E+05
種類数	17	( $\mu\text{m}^3$ )	

注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)

ただし\*印の種は群体系数(群体系/ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。

## 動物プランクトン

第 1 優 占 種	個体数 (個体/l)
繊毛虫類 <i>Tintinnidium fluviatile</i>	340

第 2 優 占 種	個体数 (個体/l)
輪虫類 <i>Polyarthra vulgaris</i>	220

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

### 植物プランクトン第1優占種



***Cyclotella glomerata***  
(ヒメマルケイソウ)  
珪藻綱

殻面は円形で、その直径は4~10 $\mu\text{m}$ と小さい。  
多数が鎖状に結合して群体をなす。

### 動物プランクトン第1優占種



***Tintinnidium fluviatile***  
(フデツツカラムシ)  
繊毛虫類

前端に繊毛束があり、これを動かすことにより動き回る。  
南湖に多く見られる。

### コメント:

植物プランクトンでは、ホシガタ珪藻の増加が見られた。動物プランクトンでは、フデツツカラムシが増加した。フデツツカラムシは繊毛虫の一種で長い筒の中に虫の本体が入っている。筒は無色透明であるが、小粒で、ゴミ、珪藻殻をつけている。虫の本体は三角形をしていて、後端は長い柄となっていて、その先で殻に固定している。